

「1年を振り返って」

校長 松田圭右

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

この度の新型コロナウイルスの感染により、北海道では「緊急事態宣言」が出る等、感染が全国的な広がりを見せており、保護者の皆様には高校の全道的な臨時休業により、大変ご苦労やご負担をおかけしていますことを心よりお詫び申し上げます。

ご心配をおかけしました卒業式につきましては、生徒の生命、感染の拡大防止の見地から3月2日、卒業生と教職員のみにて実施し、3年生39名は全員卒業を果たし、それぞれの進路に向かい本校を巣立って参りました。高校の卒業は、生徒の大人への巣立でもあり、また、生徒達だけではなく、お父さんお母さんにとっての卒業式でもあることを理解しつつ、非常事態とはいえ保護者不参加の式となったこと悔しく申し訳なく思います。

現在、首相の要請により全国の多くの小・中・高等学校では春休みまでの休業によって長い「春休み」となっており、進級・卒業や通知表について心配の声が上がっております。本校においては、学年末試験も終わっており、実習課題等からも、進級に足る力が付いているかが判断できる状態であり、進級要件等についてご心配は要りません。しかしながら、高校において3月は授業はもとより、成績をもとに進路について助言・相談を行う大事な時期であり、生徒にとって制作活動に励むほか、1年を振り返るとともに次年度の計画を建てる大事な時でもあります。

学習活動は学校の使命であり、生徒の本分であるため、各教科から課題をお送りいたしますが、指導に当たれないことを深くお詫びいたします。長い春休み、家庭待機の中にあっても、生徒それぞれの将来の夢や希望に向けて、貴重な時間として頂きますようご指導をお願い致します。そして、保護者の皆様には、生徒との対話の中から自己目標の明確化のためのご支援をどうぞよろしくお願い致します。

転出者より

地理公民科 大原一毅
学生として6年、教師として7年という月日を石川県で過ごし、地元の北海道に戻り音威子府村に赴任してから、もう4年が経ちました。どこよりも素晴らしい人間性を持った生徒がいる高校、というのが私の第一印象であり、今もそれは変わっていません。日々の授業は本当に楽しく、行事や部活動でも素晴らしい経験をさせていただきました。時節柄、直接、言葉を交して挨拶ができないのは大きな心残りです。今回のことは誰が悪いわけでもなく、人生には時にこのようなことが起こります。お互い飄々と前に進めたらと思います。

さて、最後の授業で話す予定だったことを述べます。4年前、当時の執行部と学校祭の似顔絵コーナーを立ち上げた時のことが印象的です。驚いたのは「学祭で利益を追求するのも変だし、ハガキ代を考慮して1枚100円で販売」という私の提案に、当時の生徒の多くが難色を示したことです。曰く「私の絵にそんな価値は無い」「嫌がって描き手がいなくなってしまう」等々。これらの意見から1枚10円に落ち着きました。その後、企画は軌道に乗り値上げも実現しました（個人的にはもっと価値はあると思っています）。紙とインクでできている本は何千円としますし、綿・化学繊維のかたまりにすぎない衣服でも優に万を超えるものがあります。このように商品の価値には原材料費や光熱費だけでなく、作り手の創意工夫や技術・提案などが反映されます。それにどれだけの価値を見出すかは、相手（消費者）の問題です。もちろん個人により差異はあるでしょうが、皆さんが努力した時間、培った技術には相応の価値があるのではないのでしょうか。自信が無いということは分からなくもないのですが、自らを客観視できるようになると可能性が広がると思います。学校祭ではこんなことも考えてくれたら、とあって企画をしていました。それでは皆さん、残りの高校生活をぜひ有意義なものにして下さい。ありがとうございました。

最後にお世話になった保護者の方々、地域の皆様方に感謝の言葉を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

工芸科 押見 葉奈
初めてこの学校に来た時、自然豊かな環境と、15歳で親元を離れて美術工芸を学びに生徒が集まることに驚き、強い魅力を感じました。そして生徒や学校のことを知るにつれ、それぞれに目標や葛藤がある中で一步一步前に進んでいる姿を応援したい、という気持ちが少しずつ強くなっていきました。

今年度、1年生は、工芸の授業で関わる時間が多くあり、次はどんな作品が出来上がるのか、どれくらい技術を高められるかと思いながら、楽しく授業をすることができました。最後の課題の完成を見られないのが心残りですが、次年度も持ち前の素直さとエネルギーを持って邁進してほしいと思います。

2年生は、真摯な姿勢で一所懸命、制作や課題に取り組む姿が素敵でした。また、この2年間で、徐々に自立し、特に3年生がいなくなっただけからは急速に大人びた表情になったような気がしました。来年は最高学年として、学校をしっかり牽引してくれると信じています。

村民生活6年、「社会人」になってからのほとんどを、この学校で過ごしました。生徒や保護者、地域の皆さん、職場の方々にも多くのことを教えていただき、ここまでやってこれることができました。心から感謝しています。これからもこの学校と音威子府村での時間を忘れず、新たな土地で精進していきます。本当にありがとうございました。

できごと

《卒業式》



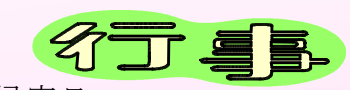
令和元年度第34回卒業証書授与式を、日程変更の上、3月2日に行いました。男子11名、女子28名、計39名が本校を巣立って行きました。コロナウイルス感染症の影響で卒業生と教職員のみでの授与式となりましたが、生徒の笑顔と涙がたくさん感動的な式となりました。4月から落ち着いた状況ですが、次のステージで元気に活躍してくれることを期待しています。



【職員異動】

【転出】

大原 一毅 教諭(地歴・公民)
「北海道南富良野高等学校(教諭)」
押見 葉奈 教諭(美術)
「北海道浦河高等学校(教諭)」



- 4月7日 帰寮日
- 8日 着任式・始業式・入寮式
- 9日 第37回入学式
PTA・体文総会
- 11日 対面式
- 22日～26日 見学旅行(3年)
- 27日～28日 3年生振替休日
- 28日 全校集会(1・2年)
- 29日 帰省日
4/29～5/6 GW休み
- 5月6日 帰寮日
- 日程未定: 結核検診(1年)
内科検診(全学年)
2計測・聴力・視力検査

子ども相談支援センター 相談窓口のお知らせ

いじめや登校困難などの学校教育に関する悩み、子育て・しつけなど家庭教育に関する悩みと相談してください。

☎電話相談 ☎0120-3882-56
(無料、毎日24時間対応)

✉メール相談 doken-soda
n@hokkaido-c.ed.jp

※急ぎの場合は電話相談を利用してください。

●来所相談 (10～16時、土日・祝日、年末年始はお休みです。)
子ども相談支援センター 札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館8階

※上記の電話番号で予約してください。

センターのWebページに「子ども相談支援センターへの相談事例」を掲載しています。次のURLからご覧ください。

URL <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssa/soudanjirei.pdf>